誰もが大好きな新台・旬台よりも、あまり見かけない台に興味を示す男・フドウdl。そんな彼がシェフとなり、レア台を独自な観点から料理してしまう、そんな自己満企画。

シェフのこだわりレシピ

今や珍しい素材を独自ルートで仕入れてくるべし。

評判にとらわれず己の舌を信じて料理と向き合うべし。

収支に固執せず食材の旨味部分を伝えるべし。

フドウシェフの

気まぐれレアチス

残りあとわずか!!

～本日の食材～
ドルマッチ
JPS

©ドルマッチ制作委員会

～本日のメインディッシュ～

サンドバッグ闇鍋
～威圧的B級グルメ～

何となく近寄り難い雰囲気を醸す赤と黒のボディー。私にとってのドルマッチに対するイメージです。これまでも幾度となく座りかけては、その独特なオーラに後ずさりしてしまっていました。晴れて入学したあの日、私の前に座るアイツに声をかけるべきか、それともしばらく「見」でいくか。そんな葛藤に苛まれていた私。あの時の空気と一緒ですわ。

いざ喋ってみるといい奴でした♪

なかなかの存在感、ただお世辞にも人気者っぽくはない。仲良くなりたいけれど、何だか取っ付きにくそう。残念なことに、かつて性格診断にて「内向的MAX」と判定された私にとっては、話しかけてもらうのを待ってばかりでした。けれど、当然ながら相手は機械。私が動かない限り事は始まらないわけで、勇気を振り絞って「こんにちは」のお札をサンドに挿入してみました。

液晶内では適当にステージが移行し、また適当に会話が交わされます。普通の機種であればプレイ速度によって会話内容が端折られたり、やりとりが早めに進行するのが常です。ただこのドルマッチはマイペース。ゲーム性を把握するために全ての会話を網羅しようとすると、いくら速読しても4・1秒以上は確実にかかってしまいます(パチスロは前回の抽選から4・1秒経過するまでリールが動かない仕組みで、最も急げば4・1秒毎にゲームを消化できます)。このマイペース振り、何となく私に似ています。

主人公の名前は「ドル」で、師匠みたいなオッサンがしょっちゅう彼の名前を呼びます。「ドル!」が「ドン!」に聞こえちゃうわけです。脳内で師匠が親方に変換されちゃうわけです、勝手に。もうこうなったら「あぁ、姿を変えたドンちゃんシリーズなんだ」と、脳内解釈が成立しちゃうわけです。ちなみに、師匠の名はドン・マイク…ってオイ!あんたがドンちゃんなのかよ。一方的な心のわだかまりが氷解していくのが分かりました。そうこうしていると、BIG中に7が揃ってARTに突入。この辺も緑ドンっぽいなぁ。

ART中はストック数管理でゲーム数の上乗せはなし。そこが最近の機種っぽくないところではあるが、ボクシングの対戦相手によって、ストックの上乗せ期待度が上昇する、と。なるほど。独自の醍醐味を格闘ゲーム風に巧く織り交ぜています。強敵に勝てたら見返りも大きい。まぁ、今回は並みのキャラばかりだったんですが、それはそれで弱いからバトルに勝ててARTもそこそこ継続。特にまだ試合中にも関わらず、画面下部のゲージがレインボーであればARTの継続が確定するので、そうなりゃ高みの見物ですよ。あらら、これはまさに「んん!?思ってたよりも、コイツいい奴じゃん♪」なパターンですよ。こうなるんなら、もっと早くアプローチしてりゃよかった。

通常時の単調さはあるものの、ボーナスからARTへの流れはなかなか気持ちいいです。レア役で大ダメージを与え、レフリーストップがかかればボーナス。これにゲーム数上乗せがあれば言うことなしだったんですが、最新機種ってわけでもないし、このままでも十分に満足です。

見付けちゃった～。オイシイ台。これがレア台発掘の醍醐味ですね。世間の評判に左右されるわけでなく、独自で発見する自身の琴線に触れるこの一台。なかなか出会えるものではないんですが、この喜びは代え難いものがあります。よし、今度見つけたらもっと仲良くなってやるぞ～。

次回おジャマするレストランはコチラ!!

筑後市
スロッティア
筑後市熊野1710-4
http://slotier.p-world.jp
256台設置のスロット専門店!!

次回訪問日はコチラ!! **4月7日[土]**